

## 会議録：「第2回恵那市産業振興ビジョン検討部会」

---

日時：平成29年6月26日（月曜日） 13：30～

場所：岩村振興事務所2階大会議室

参加者：別紙参照

【検討部会】商業・観光・工業・林業など市内の企業や団体の代表委員30人（内、3人欠席）、中小企業庁岐阜県よろず支援拠点チーフコーディネーター三輪知生氏、恵那市担当課職員等12人 計43人

### 1. 開会

### 2. 部会の進め方と今後の流れ（全体）

○商工課「本日の部会では、まず市職員が分析してきた各産業の現状や課題について説明します。この分析は、各産業を大きな枠組みで捉えてまとめたため、マクロの視点からのものとなっています。商品を作るときに、消費者の声を大切にしているように、産業振興のための事業を考えて行くときには、事業者が日々の事業の中で感じている現状や課題が最も重要な要素となります。どんな課題でも結構ですのでたくさんの意見を出してください。課題が多ければ多いほど、解決策もたくさん考えられます。各部会で出された課題については、会議の最後に情報共有する時間を設け、産業間の連携の可能性も検討していきたいと思えます。

次に、今後の部会の流れを説明します。本日の部会では、十分に委員の皆さんの課題を聞き出すことが難しいと思えますので、今後、個別に話を聞くためヒアリングを実施させていただきます。ヒアリングスケジュールは改めて調整いたします。

第3回検討部会では、稼ぐ産業とするために発想の転換を行う目的で、県内の成功事例などを交えたセミナーを開催します。そして各産業が目指すところを検討します。

第4回検討部会では、目指すところを踏まえて、自分たちで何が出来るか考え、具体的なビジョンと数値目標を設定します。さらに、ビジョンを達成するために必要となってくる条件と、障害となる制約条件を整理します。本日考える課題が、この制約条件となってきます。

第5回検討部会では、ビジョン達成のために市が担う役割と事業者が担う役割を整理し、10月開催予定の第6回検討部会で暫定的なビジョンをまとめます。暫定的なビジョンから、来年度に実施すべき事業を予算化するとともに、すぐに実施すべき事業は補正予算対応するよう進めます。

その後は、検討部会の進捗状況に応じて開催し、3月のビジョン策定となります。

また、農業部門については現在、儲かる農業プロジェクト委員会として準備しており、農業者の所得を上げ、自立できる産業とするためにはどうしたらいいかなどを検討するよう進めております。本検討部会とは次回以降の会議で連携して行けるよう調整していきます。

では、各部会で市が分析した現状と課題の説明をお願いします。」

### 3. 各産業の現状と課題の説明（部会）

別紙資料を参照

○商工課「では、委員の皆さんが認識する現状と課題の抽出に移りますが、始める前にアドバイザーの三輪さんから意見を考えるポイントを説明いただきます。」

○三輪氏「これから委員の皆さんが現場レベルで捉えている現状や課題について意見を出してもらいますが、課題ばかりを見ていると恵那市の未来に向けた考えは生まれません。未来へ向かっていくためには、自分たちがどうありたいか、どうあるべきかという姿を描いて進んでいく必要があります。それがビジョンです。このことを念頭に置いて、どんなことでも結構ですので意見を出してください。また、検討部会では言いにくい意見などは個別のヒアリングでお聞きしますし、経営上の相談などは、8月に市が開設する予定のビジネスサポートセンターでも相談できますので、ご利用ください。」

○商工課「では、各部会で進行をお願いします。」

### 4. 委員が認識する現状と課題の抽出（部会）

#### 【商業・観光部会の主な意見】

##### ■お客様

○顧客の確保が困難

- ・顧客が高齢化しているが、なかなか若い顧客の取り込みが難しく、人口減少に伴い顧客の確保が困難。
- ・デフレのため、お金を使わない。宴会が少ない。
- ・アジアの団体客は今後小グループにシフトされていくだろう。客も減少。

○滞在時間が短い

- ・観光客は増加しているが、一時的な滞在が多い。宿泊でも宿泊するだけでその後、近隣の観光地へ行ってしまふ。
- ・ネットの口コミにより、遠方からそのために来る人がいるが、そこだけで他へは寄らない。

○交通手段の課題

- ・その場所へ移動する手段が乏しく、次の場所へ繋がって行かない。周遊バスが欲しい、

駅からの二次交通が課題。

- ・お客様は車を利用し買い物に行く事が多いが、商店街等は駐車場がない。

#### ○大型店舗との競合

- ・中津川市内に出来た大型店舗に、中津川市から来ていた顧客が取られている。

#### ○その他

- ・市職の給与を地域通貨で支払い、地域通貨を使用することで循環をよくする。
- ・安心安全なのである信仰宗教団体を誘致する。観光客は一時的だが、団体を誘致することにより滞在する人が増える。

### ■商品（資源）・サービス

#### ○お金を落としてもらい仕組みが不十分

- ・客単価が低く、上手くお金を落としていける仕組みを考える必要がある。
- ・神秘的なところ（笠置のペトログラフなど）、体験プロジェクトを売り出すとよい（1日対座できるような）
- ・地元の飲食店が知られていないのと、少ない。
- ・消費額が大事

#### ○地消地産が出来ていない

- ・地産の物を使用したいが、なかなか町内だけではそろえられない。
- ・一部の事業者の消費額が多いだけで、その他のところまでは届いてない。

#### ○原材料費が高騰

- ・原材料の値段が、TVなどの影響で高騰し、ブームが過ぎても下がらないことが多く、それが商品の値段に影響する。こういった仕組みを変えて欲しい。

### ■商業・観光の特徴

#### ○ブランディング不足

- ・避暑地的に思っていたがそうでもなく、水がきれい、空気がうまいも全国に沢山ある。それだけではダメ。
- ・恵那市の事が一言で伝えられない、イメージしにくい。
- ・飛騨牛の元であることが知られていない。
- ・ここでしか食べられない、おいしい食事処を増やす。

#### ○PR不足

- ・海外への営業資金があれば行きたい。
- ・おばあちゃん市は、恵那市の西の玄関であるため、市内観光を案内するコンシェルジュがいるとよい。
- ・看板では追記や更新が必要となっていく。

#### ○その他

- ・区画整理等で大型店が市内へ来たら関税をかけて欲しい。
- ・市の事業は、市内発注で。

## ■担い手

### ○担い手不足

- ・休業・廃業者が多い。
- ・学生の働く場所を出したいが、学生がいない。
- ・若い人が市外へ出て行ってしまうことにより、地域等の役割分担の負担が多い
- ・地元の人を雇用しようと働きかけているが地元で働きたい人がいない。
- ・ITに関し1人で行っている為、助けてもらう人がいると良いと思うが、資金的に厳しい。
- ・ITに関する知識不足。
- ・人を雇うことにより人材教育をする人が必要だが、人材教育に人を取られてしまうと業務に支障が出る。
- ・若い人の意見を聞かない。
- ・地元の事を考えていない人が多い。

### ○横の連携不足

- ・農業等との横の繋がりが欲しい。
- ・同じ思いの人との繋がりがほしい。

## 【工業部会の主な意見】

### ■担い手

#### ○高卒の人材不足

- ・工業団地等の大手の企業に流れてしまう。大手思考。
- ・現場の高校生が不足。
- ・工業、商業などの専門高校の縮小。
- ・高校生の希望する大学が近隣にない。

#### ○大学生等の人材不足

- ・大学生等の採用活動時に寮の有無を聞かれる。住宅助成がほしい。
- ・グローバル化、外国語に対応できる人材の確保。
- ・大学生等の高学歴の学生が働く場所がない。

#### ○人材不足（全般）

- ・定年を65歳までとした時の助成があれば良い。
- ・姉妹都市や求人倍率の低い市町との人事交流（企業説明会等の開催）。
- ・新卒、中途問わず不足。労働人口の減少が要因。（都市で働いている人への地元勤務のアプローチ）
- ・優秀な人材の不足。過疎化のイメージがマイナスか。
- ・若手社員の不足。製造、施行分野。設計のみではなく現場もあるため敬遠される。
- ・企業説明会の回数増。
- ・窯業分野も人手不足。瑞浪市から社員が来ている。

- ・専門業者不足により自社での対応による人手不足。
- ・社員の高齢化により親の介護（通院）を理由にした休暇の増。病院への送迎バスの不足。
- ・賃金を名古屋市と比較され、都市に流れる。

#### ○外国人労働者

- ・日本語を勉強できる場所の不足、PR不足。
- ・外国人労働者は空き家を活用。
- ・外国人労働者は中国人からベトナム人へ変わってきている。

### ■産業の現状

- 産学官の連携がない。
- 労働生産性が低い。
- 地場産業の衰退。
  - ・廃業が多い。後継者不在、将来不透明が理由か。

### ■製品・販路

- 市内には調達先がない。
  - ・専門業者が市内には少なく他市に頼っている。
  - ・顧客が近くにいない。
- 原料の確保、高騰。
  - ・資源のリサイクルは地元で。
  - ・エネルギーコストの高騰。
- 海外への販路拡大。生産拠点の移転もあり得る。
- 高付加価値製品の製造・販売
  - ・素材産業（サプライヤー）のみ。高付加価値のオリジナル製品の開発。

### ■土地・環境

- 交通アクセスに特徴がない
  - ・悪くはないが中津川、土岐と比べても特徴があるわけではない。
  - ・高速道路、国道等はあるが市街地のみ。周辺地の道路網は良くない。
  - ・特に恵那インター周辺の利便性が悪い。
  - ・公共交通機関の利便性が悪い。車がないと生活できない。
- 企業誘致（工業団地）は労働者の取り合いとなるため、人を連れてくるような誘致の仕方。

### ■その他

- 補助金の申請が複雑、手間が掛かる。

○働く側の意識変化。

### 【林業部会の主な意見】

#### ■担い手（担う要素）

○担い手不足（全般）

- ・林業者が少ない。
- ・売り上げがまばらでなかなか人が雇えない。
- ・担い手と生産性の向上一連の流れの中での教育が必要。
- ・人材育成（現場、プランナー）。
- ・仕事へのやりがいの醸成。
- ・林業以外で地域への参加により生きがいを見出すことで定着率が上がる。
- ・住民と山とのつながりがほぼ無い。

○担い手不足（小規模事業者）

- ・小規模な担い手が活躍出来るように。
- ・小規模、副業としてやる人への研修や支援が必要。

#### ■生産（生み出す要素）

○生産性が低い

- ・機械化が不十分
- ・レンタル機械への補助金が必要。
- ・小型林業機械の貸し出しや研修。
- ・車両系に限定しない搬出方法の選定。
- ・森林所有者からの経営委託（所有者の意識改革）。

○製材工場不足

- ・製材工場が市内に1社しかない。

○整備が不十分

- ・間伐等への補助金の増額。
- ・路網整備。

#### ■流通（稼ぐ要素）

○木材需要の少ない

- ・木材需要の減少。
- ・木造建築の減少。
- ・市内業者への製材製品販売量が減少している。
- ・建築材を買う市内業者が減少している。
- ・建築時に木材にこだわらなくなっている。
- ・地元企業（建築業）に元気が無い。
- ・木材価格の下落、低迷。

- ・市内での木材消費量を増やす。
- ・東濃ヒノキのブランド強化。
- ・消費者と生産者の情報共有マッチング。

#### ■森林環境（守る要素）

##### ○森林づくりが出来ていない

- ・森林の持つ公益機能が果たす役割、重要性の地域との合意形成。
- ・恵那市の山のビジョン。
- ・森林のエリア分け、多様な山。

#### ■製品化（高付加価値化）

##### ○製品化が進まない

- ・建築用材（合板）以外の製品が少ない。
- ・県産材のような形で恵那市産材に特化した事業は出来ないか。
- ・恵那市の木材というのが見えにくい。

#### 5. 各産業の課題の情報共有（全体）

各部会の代表委員が、抽出された現状や課題を発表し、情報共有を行った。

#### 6. 次回検討部会の開催について

○商工課「今回は、平成29年7月25日火曜日、午後3時から、市役所西庁舎3階災害対策室で開催します。本日、十分に課題を掘り下げて議論するまでに至りませんでしたので、今後の検討部会のスケジュールについては再度、市で見直しを行い、十分な議論が出来るよう調整しますので、よろしくお願いします。」

#### 7. 閉会